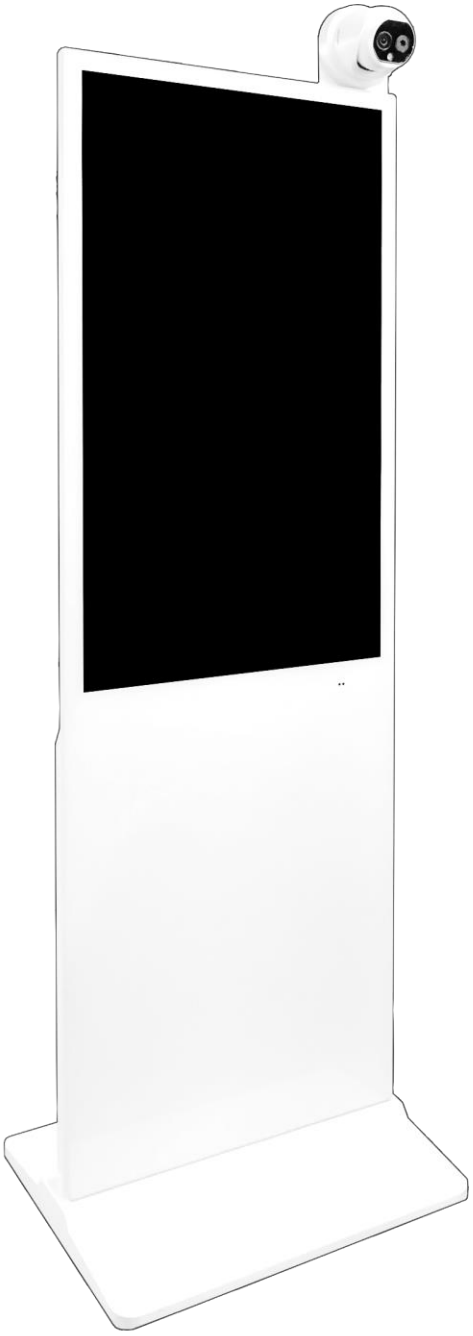
検温アラームシステム

DS-43S AI+

取扱説明書



az.on inc.　AZO LLC

Ver.1.4.6以降対応　2021/03/03 更新

目次

はじめに **P.6**
ご使用上の注意 P.6
運用上の注意 P.6
設置環境について P.7
運用について P.7
各部名称 / 本体 **P.8**
本体正面 P.8
本体背面 P.9
各部名称 / 本体画面 **P.10**
通常画面 P.10
設置 **P.11**
設置位置・角度の調整 P.11
電源の接続 P.12
マウス・キーボードの接続 P.12
基本操作 / 電源操作 **P.13**
本体 / 起動操作 P.13
管理端末 / 起動操作 P.13
本体 / 終了操作 P.14
管理端末 / 終了操作 P.14
基本的な使用方法 **P.15**
検温動作 P.15
アラーム動作 P.15
ログ（イベント）の閲覧 **P.17**
本体でログ（イベント）ビューに入る操作 P.17
本体で通常画面に戻る操作 P.17
管理端末でログ（イベント）ビューに入る操作 P.18
管理端末で通常画面に戻る操作 P.19
ログ（イベント）ビュー P.20

目次

詳細設定 / カメラ設定 P.21
本体でカメラ設定に入る操作 P.21
本体で通常画面に戻る操作 P.22
管理端末でカメラ設定に入る操作 P.23
管理端末で通常画面に戻る操作 P.24
測定温度のフォントサイズ設定 P.25
測定温度・顔認識枠のカラー設定 P.25
アラーム温度の設定 P.26
測定温度の手動補正 P.26
マスク非着用警告設定 P.27
アラーム音量の設定 P.27
詳細設定 / アラームアナウンスの設定 P.28
アラームアナウンスの有効化・無効化 P.28
詳細設定 / 本体スピーカーの設定 P.29
音量の設定 P.29
詳細設定 / 管理端末スピーカーの設定 P.30
音量の設定 P.30
詳細設定 / 日付と時刻の調整 P.31
本体の日付と時刻の調整 P.31
管理端末の日付と時刻の調整 P.32
詳細設定 / サイネージ設定 P.34
サイネージ設定に入る操作 P.34
スケジュールファイルの新規作成・開く P.35
コンテンツ（メディアファイル）の保存 P.36
コンテンツ（メディアファイル）の登録・削除 P.36
コンテンツ（メディアファイル）表示の詳細設定 P.38
コンテンツ（メディアファイル）表示順の設定 P.39
テキスト・スクロールテキストの設定 P.40

目次

スケジュール内容の確認 …… P.40

スケジュールの保存 …… P.41

起動時スケジュール読込の設定 …… P.41

詳細設定 / 画面レイアウト変更 …… P.43

レイアウトプリセットの切り替え …… P.43

レイアウトプリセット一覧 …… P.45

主な仕様 / 本体 …… P.47

はじめに

ご使用上の注意

- 異常の状態で使用しないで下さい
  万が一強く発熱していたり、異臭がする、煙が出ているなどの異常状態のままご使用になると、火災・感電等の事故の原因となります。直ちに電源供給を止めてください。
- 分解・改造しないで下さい
  修理者以外の人は、絶対に本機を分解・改造しないでください。火災、感電等の事故の原因となります。
- 水などがかからないようにしてください
  本機を水につけたり、水をかけたり、雨がかからないように注意してください。故障、ショート、感電、火災等の事故の原因となります。また、濡れた手で本機や電源に触れないでください。感電の原因となります。
- ほこりの多いところでのご使用は充分にご注意下さい
  本機の電源端子等、各端子部にほこりがかからないように注意してください。故障、ショート、感電、火災等の事故の原因となります。
- 温度は仕様の範囲内でご使用下さい
  ご使用になる際は、本機の使用温度範囲内かどうかを充分にご確認ください。使用温度範囲を超えた場合、故障、火災等の事故の原因となります。
- 電源電圧をお守り下さい
  ご使用になる際は、本機の電源電圧仕様をご確認いただき、それ以外の電圧で使用しないでください。故障、火災等の事故の原因となります。
- 設置について
  本機の質量と設置場所の強度を充分にご確認の上、設置ください。万が一落下すると非常に危険です。
- 電源について
  電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、重いものを載せたり、挟み込んだりしないでください。

運用上の注意

- 本製品で測定される温度は対象者の体表温度（皮膚温）であり、体温（深部体温）とは異なります。発熱の疑いがある方を発見した際は、接触型体温計での再検温を推奨します。
- 本製品は、ウィルスの感染を判断するものではありません。
- 本製品は、薬事認証を取得した医療機器ではありません。
- 本製品を用いた診断などの医療行為にはご利用頂けません。

はじめに

設置環境について

本製品は特性上、設置環境に大きく影響を受けます。常時、自動的に温度補正が行われますが、不適切な設置環境下では著しく測定精度が低下することがあります。以下の内容をよくお読みの上、設置を行ってください。

1. 屋内に設置する
本製品は屋内用です。屋外や屋外に近い不安定な環境下ではご使用できません。

2. 適切な環境温度下に設置する
本製品の動作環境温度は１０℃～３５℃（湿度80%以下）です。より高い精度で検温を行うには、空調設備等で２５℃前後に調整された環境が望まれます。

3. 無風かつ急激な環境温度の変動がない場所に設置する
風のある場所や急激な環境温度の変動がある場所では正常に測定できません。屋外に近い出入口付近や空調設備の吹出口付近などの場所は避けてください。

4. 直射日光や熱源を避ける
カメラ部やカメラ部周辺が熱をもつと測定精度が低下します。本体に直射日光が当たる場所や熱源に近い場所は避けてください。

5. 測定範囲内に光源や熱源が入らないようにする
本製品は、対象物から出ている赤外線放射エネルギーを検出して温度を測定します。測定対象者の周囲に光源（直射日光・照明器具等）や熱源がある場合、測定精度の低下・ご検出を引き起こす可能性があります。可能な限り、測定範囲内に光源や熱源が入らないように設置してください。

運用について

本製品は、赤外線サーモグラフィーセンサーを用い、対象者から出ている赤外線放射エネルギーを検出して温度を測定します。発熱の疑いがある方を発見するためには適切な運用が必要です。また、発熱の疑いがある方を発見した際は、接触型体温計での再検温を推奨します。

1. 測定のための体表露出
本製品で体表温度を測定するためには、額（ひたい）の一部が露出している状態でカメラから捉えられる必要があります。帽子や髪などで額（ひたい）が覆われている場合は正確な測定ができません。額（ひたい）の一部を露出し、本製品の方に顔を向けていただくよう促してください。

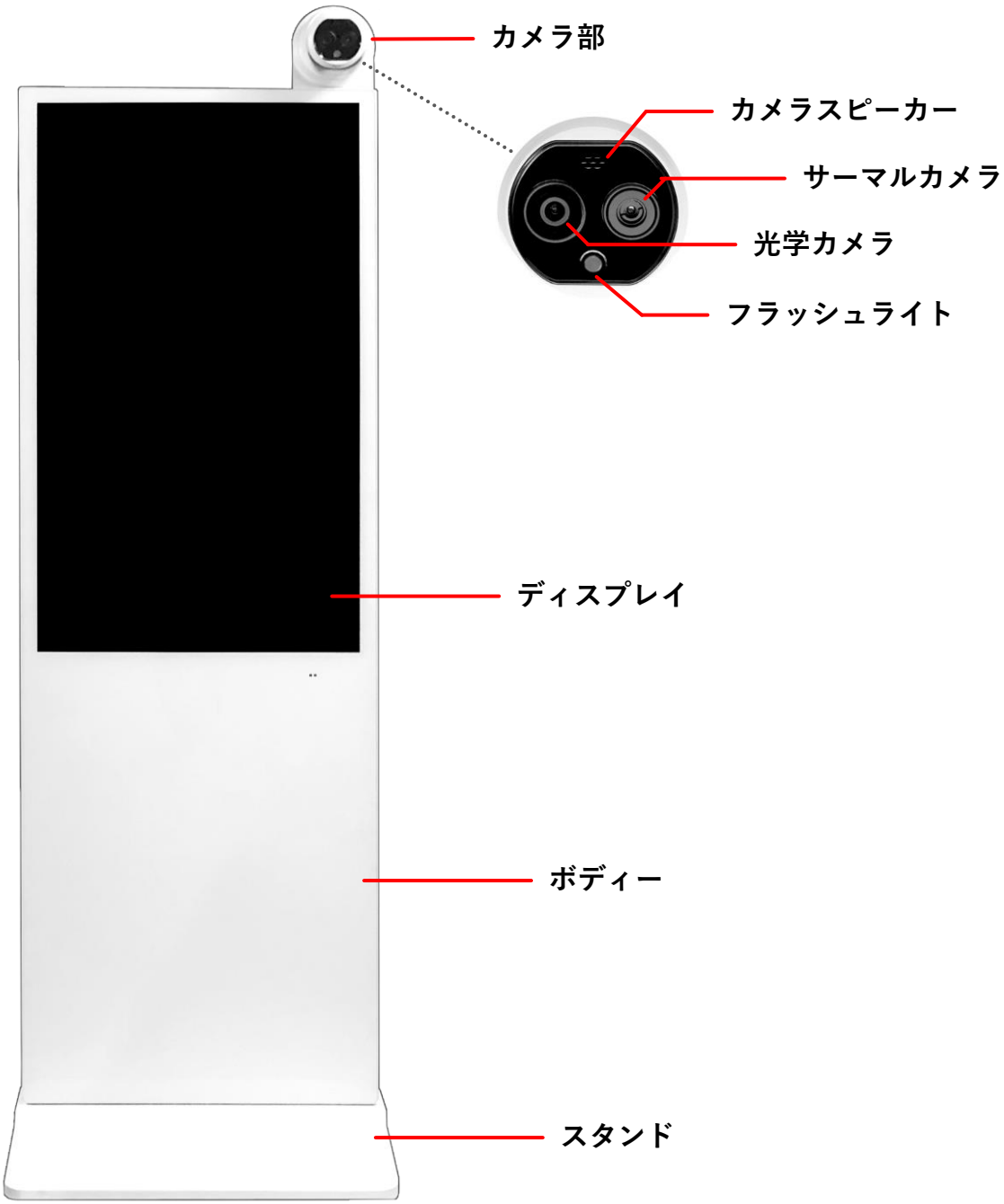
2. 体表温度と体温の違い
本製品で測定される温度は対象者の体表温度（皮膚温）であり、体温（深部体温）とは異なります。発熱の疑いがある方を発見した際は、接触型体温計での再検温を推奨します。

3. 気温（環境温度）による体表温度の変化
体温は気温が変化してもそれほど大きく変化しませんが、体表温度は気温によって変化し、気温が高くなるにつれて体温に近づいていきます。気温が低くなると体温と体表温度の差が大きくなり、同時に個人差の幅も大きくなります。そのため、外気温の低い時期に屋外から屋内に入ってくる対象者を測定する場合には、アラームしきい値を下げるなどの検討が必要です。また、体表温度が著しく低下している場合には、本製品での測定ができないことがあります。

4. 日光や暖房等による体表温度の上昇
強い日差しや暖房等によって体表温度が上昇していることがあります。

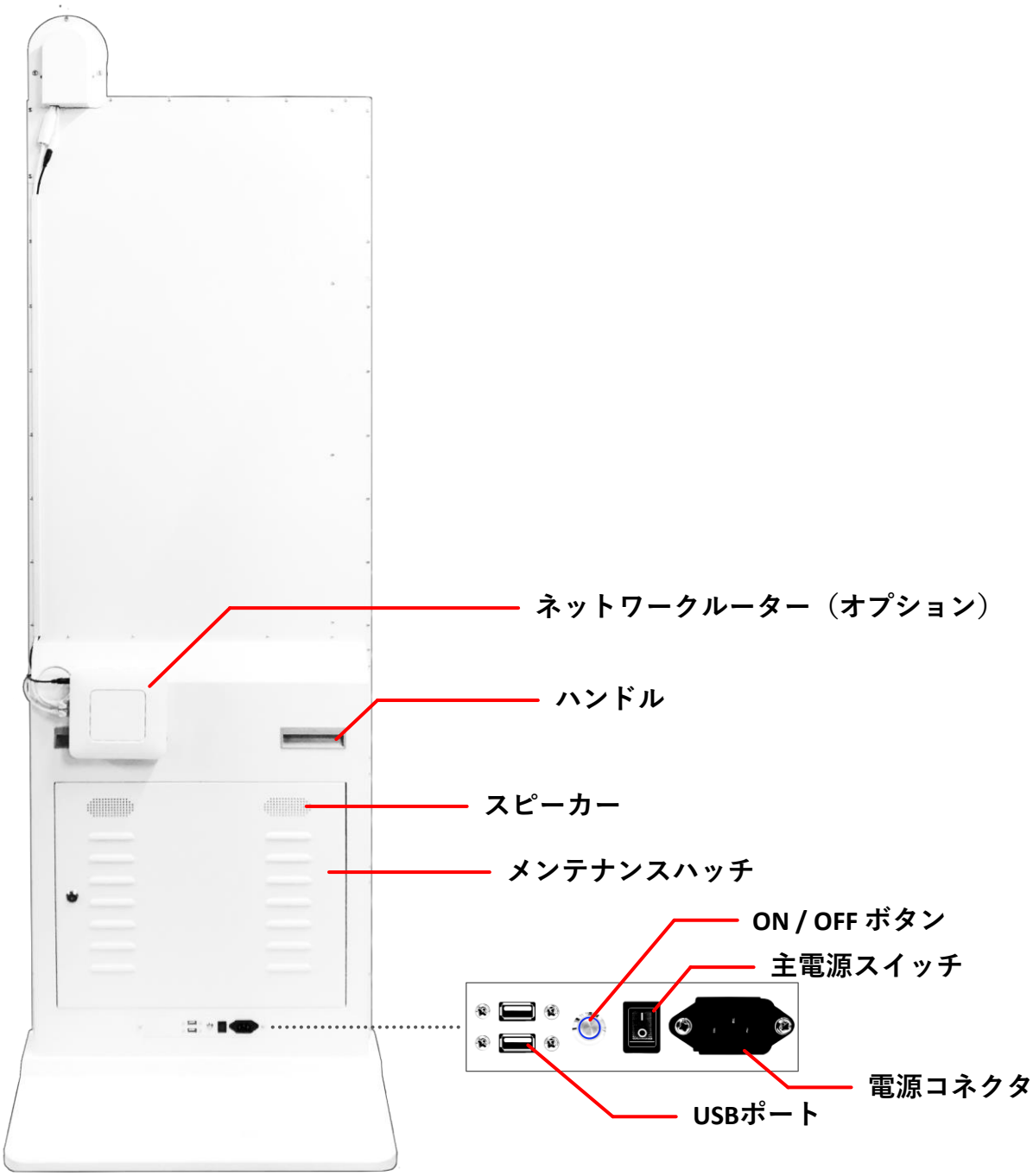
各部名称 / 本体

本体正面



各部名称 / 本体

本体背面


ネットワークルーター（オプション）
ハンドル
スピーカー
メンテナンスハッチ
ON / OFF ボタン
主電源スイッチ
電源コネクタ
USBポート

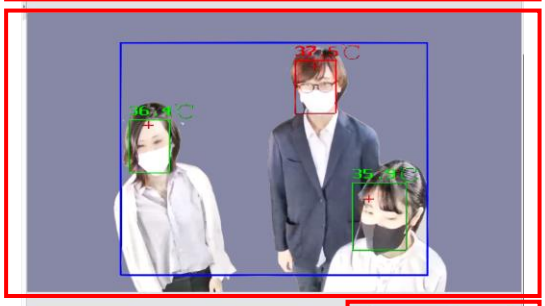
各部名称 / 本体画面

本体通常画面

※マニュアルの画面表示は一例です。設定によって表示は異なります。

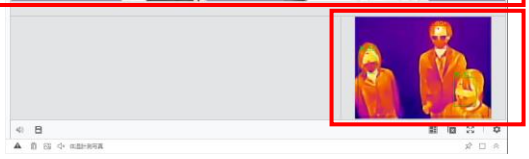
サイネージ部

スケジュールされた画像・動画等のコンテンツやテキスト等が表示されます。
コンテンツやテキストは自由に設定可能です。



検温画面

カメラの映像上に測定温度がオーバーレイ表示されます。



熱分布画像

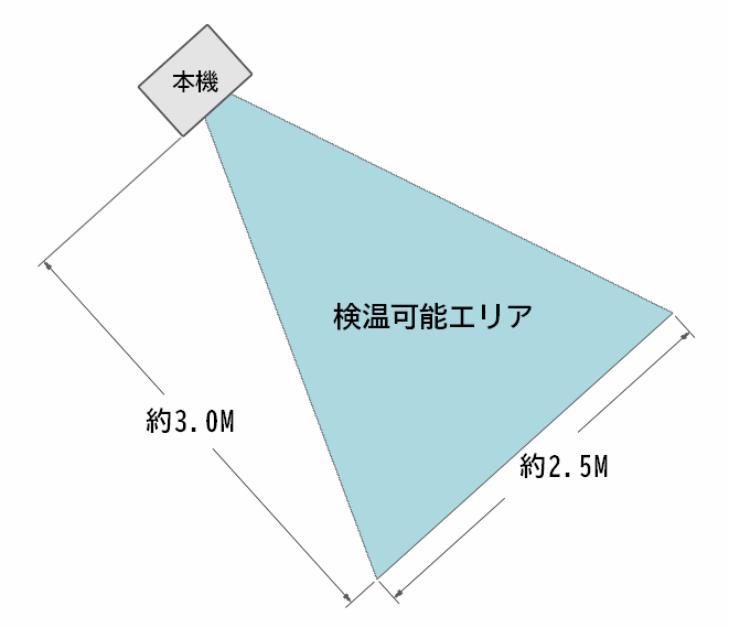
サーモグラフィーセンサーで取得された熱分布画像が表示されます。

設置

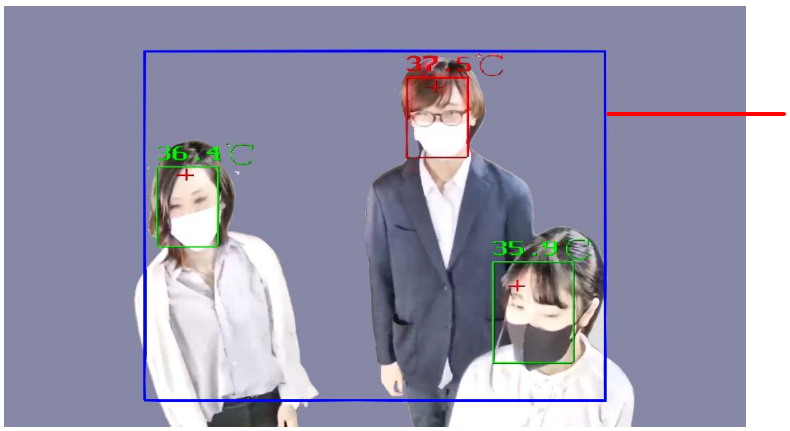
設置位置・角度の調整

適切に対象者の検温が行えるよう、設置位置・角度を調整します。

以下の図は、検温可能な範囲を大まかに表したものです。
本製品は、本機から最大で約3.0Mの距離まで測定可能ですが、より高い精度で測定を行う場合には、本機から約1.0～1.5Mの距離での測定を推奨します。



測定を行うためには、対象者の顔が検温可能エリア枠内に入っている状態で、カメラの方に顔が向いている必要があります。また、対象者の顔が遮蔽物で隠れている場合や、複数の対象者の顔が重なっている状態では測定できません。



検温可能エリア枠

検温可能な範囲を表しています。
この枠の範囲外は測定できません。

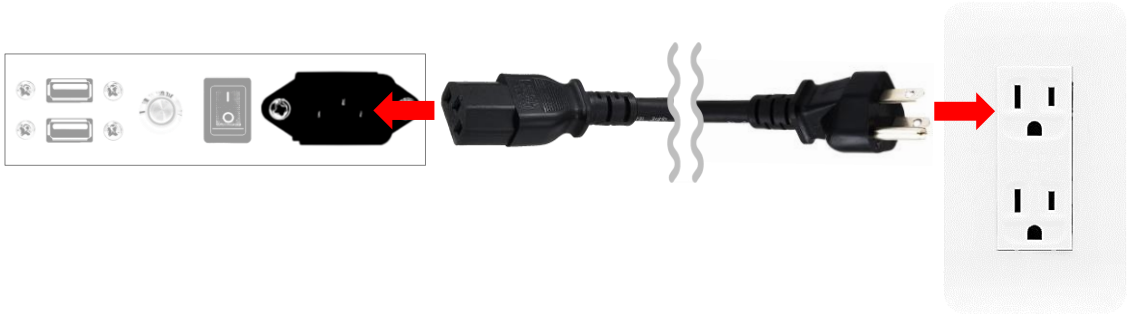
設置

カメラの角度調整は、カメラのマウント部を抑えながらカメラを上下左右に動かします。

⚠ レンズには触れないでください。

電源の接続

電源ケーブルを本体背面の電源コネクタに接続し、電源プラグをコンセントに接続します。



⚠ AC100Vの電源以外は使用しないでください。

⚠ 起動中に電源プラグやコンセントを抜かないでください。

マウス・キーボードの接続

設定やメンテナンスなどの操作をする際、マウスとキーボードをUSBポートに接続します。通常使用時は取り外して保管してください。

⚠ ご操作の恐れがあるため、通常使用時は接続しないでください。

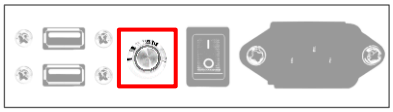
基本操作 / 電源操作

本体 / 起動操作

1．主電源スイッチを ｜ONにします。

⚠ 起動中に主電源スイッチをOFFにしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。

2．ON / OFFボタンを押し、ボタンのLEDが点灯したことを確認します。



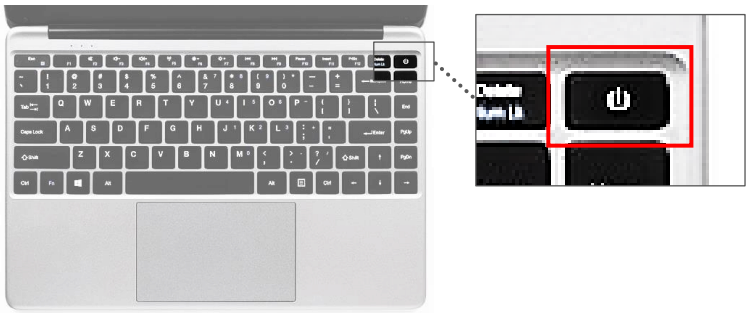
⚠ ON / OFFボタンを押し続けないでください。

起動操作後、約5分で通常画面が起動します。
起動後、30～60分程で温度補正が安定し、ご使用可能な状態になります。

管理端末 / 起動操作

本体の起動が完了してから管理端末の電源を入れてください。

1．電源キーを押し、電源ランプが点灯したことをます。



※ラップトップ型（DSAITERM-L1）

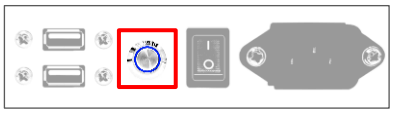
⚠ 電源キーを押し続けないでください。

起動操作後、約3分で通常画面が起動します。
本体が起動している状態であれば、本体に自動的に接続されます。

基本操作 / 電源操作

本体 / 終了操作

1．**ON / OFFボタンを押します。**



⚠ ON / OFFボタンを押し続けないでください。

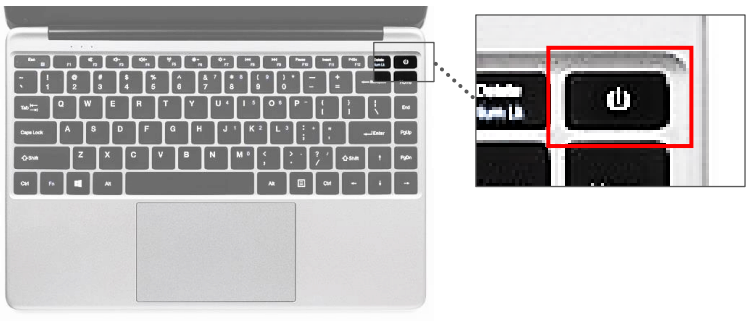
2．**シャットダウン表示を確認し、ボタンのLEDが消灯するまで待ちます。**

3．**主電源スイッチを◯OFFにします。**

⚠ ボタンのLEDが消灯するまで主電源スイッチをOFFにしたり、電源プラグを抜いたりしないでください。

管理端末 / 終了操作

1．**電源キーを押し、電源ランプが消灯するまで待ちます。**



※ラップトップ型（DSAITERM-L1）

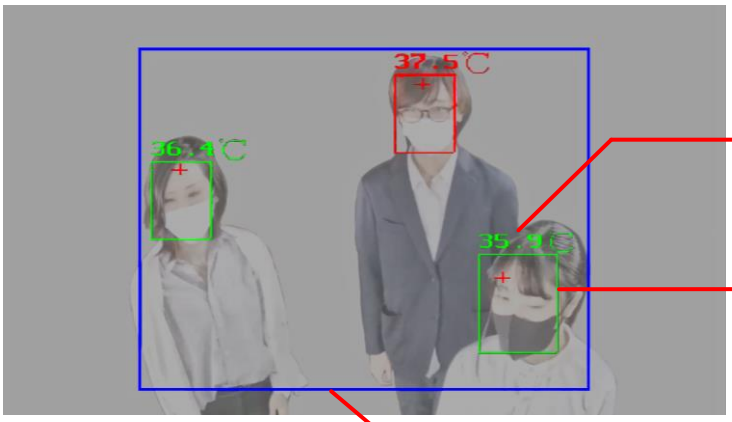
⚠ 電源キーを押し続けないでください。

基本的な使用方法

本製品は、赤外線サーモグラフィーセンサーを用い、対象者から出ている赤外線放射エネルギーを検出して温度を測定します。
測定はシームレスに行われ、測定温度が設定した閾値を超えるとアラームが起動します。アラームが起動した際には、予め設定した通知等の動作をします。

検温動作

※画面表示は一例です。設定によって表示は異なります。



測定温度

対象者の頭上に測定された温度が表示されます。

顔認識枠

顔を認識すると枠が表示されます。測定されている箇所は十字のポインタで表されます。

検温可能エリア枠

検温可能な範囲を表しています。この枠の範囲外は測定できません。

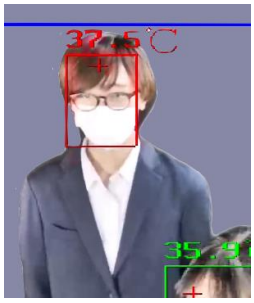
対象者が検温エリア内に入り顔が認識されると、顔認識枠が表示されます。温度測定が完了すると、対象者の頭上に測定された温度が表示されます。測定されている部分は十字のポインタで示されます。

測定を行うためには、カメラの方に顔が向いている必要があります。また、額（ひたい）の一部が露出している状態で、カメラから捉えられる必要があります。

アラーム動作

アラームが起動すると、予め設定した通知等の動作をします。

- **顔認識枠・測定温度の表示色の変化**
  測定温度が閾値を超えた対象者の顔認識枠・測定温度の表示色が変わります。



基本的な使用方法

- **音声アラーム**
  設定したアラーム音が鳴ります。

- **フラッシュライト**
  カメラ部のフラッシュライトが点滅します。

- **管理端末への通知**
  管理端末にポップアップと音声で通知されます。

ポップアップウィンドウには、以下の内容が表示されます。
・アラームが起動したカメラのリアルタイム映像
・アラームが起動した際のキャプチャ画像
・アラーム日時
・測定温度等詳細

ポップアップウィンドウは閉じるまで消えませんが、新たにアラームが起動すると、自動的に更新されます。前 / 次へ をクリックすることで前後のアラーム内容を確認できます。
ポップアップウィンドウを閉じる場合は、退出をクリックします。

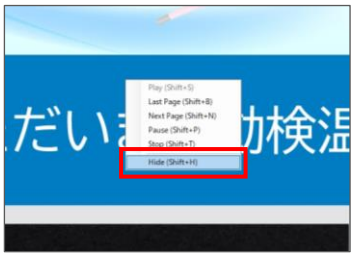
ログ（イベント）の閲覧

本製品は、検温動作をした際にログ（イベント）が保存されます。ログ（イベント）は本体、管理端末のどちらからでも閲覧することができます。

本体でログ（イベント）ビューに入る操作

1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hideをクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)



2．メインメニューを開く

画面左上のメインメニューボタンをクリックします。

3．システムイベントを開く

メインメニューからシステムイベントをクリックします。

本体で通常画面に戻る操作

1．システムイベントを閉じる

開いているシステムイベントタブの閉じるボタンをクリックします。

ログ（イベント）の閲覧

1．メインメニューを開く

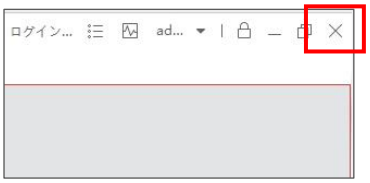
画面左上のメインメニューボタンをクリックします。

2．メインビューを開く

メインメニューから、メインビューをクリックします。

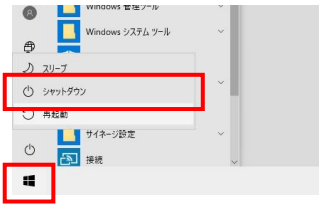
3．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。



4．システムの再起動を行う

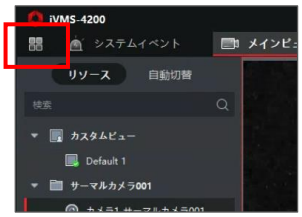
画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。



管理端末でログ（イベント）ビューに入る操作

1．メインメニューを開く

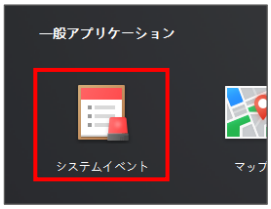
画面左上のメインメニューボタンをクリックします。



ログ（イベント）の閲覧

2．システムイベントを開く

メインメニューからシステムイベントをクリックします。



管理端末で通常画面に戻る操作

1．メインメニューを開く

画面左上のメインメニューボタンをクリックします。

2．メインビューを開く

メインメニューのから、メインビューをクリックします。

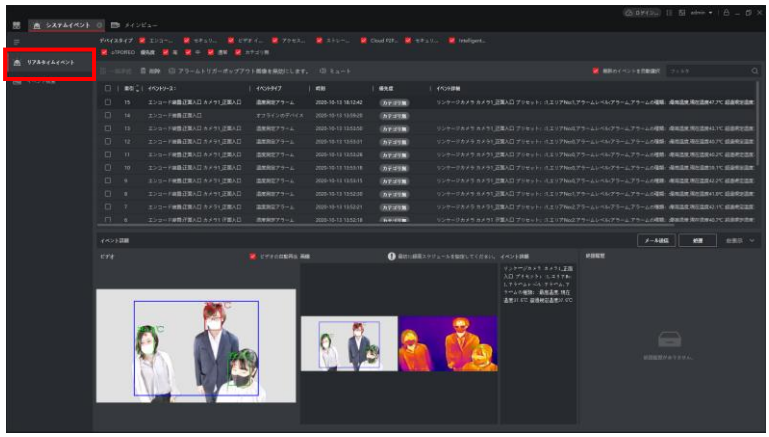
ログ（イベント）の閲覧

ログ（イベント）ビュー

ログ（イベント）には以下の内容が記録されます。
・検温が行われたカメラ
・イベントタイプ
・日時
・測定温度
・キャプチャ画像
・映像（オプション）

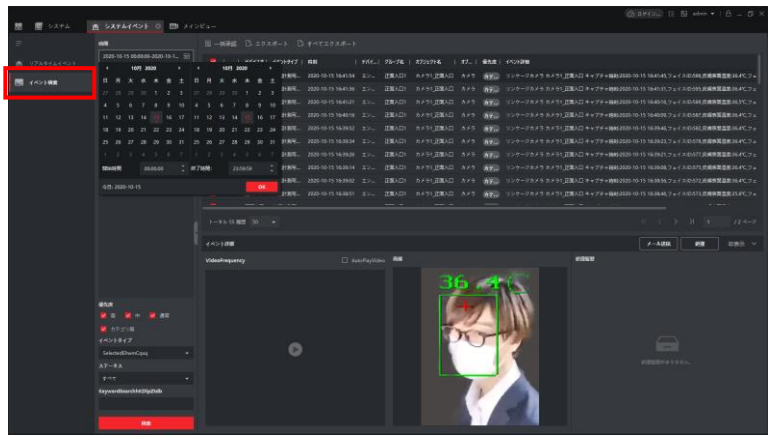
リアルタイムイベント

リアルタイムイベントは、検温動作をした際に随時更新され、システムを終了した際にクリアされます。



イベント検索

イベント検索では、記録されているログ（イベント）をすべて閲覧できます。検索機能を使用することで、内容で絞り込んでログを閲覧することもできます。



ログ（イベント）は設定した期間を過ぎるか、一定容量を超えると、自動的に古いデータから削除されます。

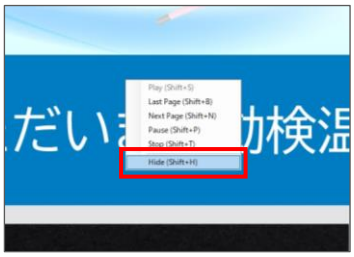
詳細設定 / カメラ設定

カメラに関する設定をします。この設定は本体、管理端末のどちらからでも行うことができます。

本体でカメラ設定に入る操作

1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hideをクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)

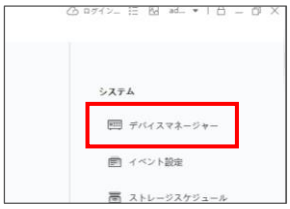


2．メインメニューを開く

画面左上のメインメニューボタンをクリックします。

3．デバイスマネージャーを開く

メインメニュー右側のシステムから、デバイスマネージャーをクリックします。



4．カメラの環境設定を開く

カメラデバイスのリモート設定（歯車アイコン）をクリックし、基本設定をクリックします。（隠れて表示されていない場合は右にスクロールします）

しばらくすると、環境設定ウィンドウが開きます。

詳細設定 / カメラ設定

本体で通常画面に戻る操作

1．カメラの環境設定を閉じる

環境設定ウィンドウの閉じるボタンをクリックします

2．メインメニューを開く

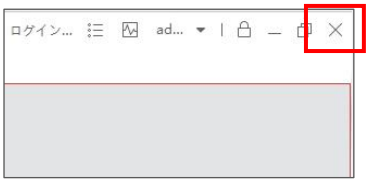
画面左上のメインメニューボタンをクリックします。

3．メインビューを開く

メインメニューから、メインビューをクリックします。

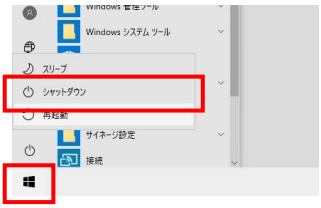
4．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。



5．システムの再起動を行う

画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。

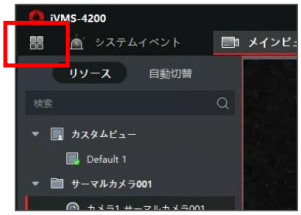


詳細設定 / カメラ設定

管理端末でカメラ設定に入る操作

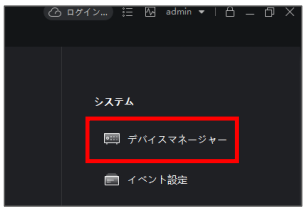
1．メインメニューを開く

画面左上のメインメニューボタンをクリックします。



2．デバイスマネージャーを開く

メインメニュー右側のシステムから、デバイスマネージャーをクリックします。



3．カメラの環境設定を開く

設定を行うカメラデバイスのリモート設定（歯車アイコン）をクリックし、基本設定をクリックします。

しばらくすると、環境設定ウィンドウが開きます。

詳細設定 / カメラ設定

管理端末で通常画面に戻る操作

1．カメラの環境設定を閉じる

環境設定ウィンドウの閉じるボタンをクリックします

2．メインメニューを開く

画面左上のメインメニューボタンをクリックします。

3．メインビューを開く

メインメニューのから、メインビューをクリックします。

詳細設定 / カメラ設定

測定温度のフォントサイズ設定

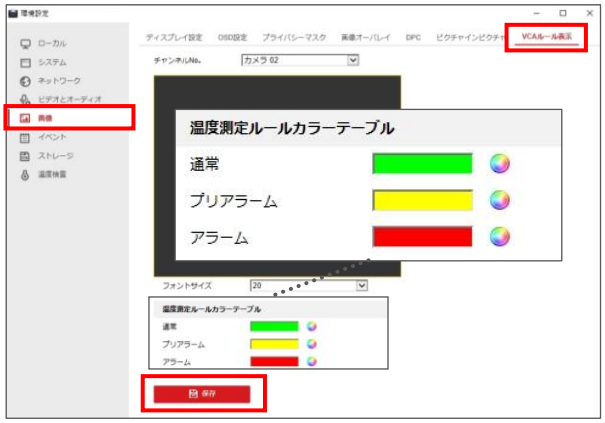
検温画面上の測定温度のフォントサイズを設定します。

1. 左ペインから画像を開き、VCAルール表示タブを開きます。
2. フォントサイズを設定します。
3. 保存をクリックします。

測定温度・顔認識枠のカラー設定

検温画面上の測定温度・顔認識枠のカラーを設定します。

1. 左ペインから画像を開き、VCAルール表示タブを開きます。
2. カラーパレットをクリックして変更します。
3. 保存をクリックします。



詳細設定 / カメラ設定

アラーム温度の設定

アラームが起動する温度閾値を設定します。

1. 左ペインから温度検査 / 基本設定を開き、温度検査設定タブを開きます。
2. 温度が上がったらアラームとプリアラーム温度の 2 箇所に設定する温度を入力します。
3. 保存をクリックします。

測定温度の手動補正

測定温度を手動で補正します。

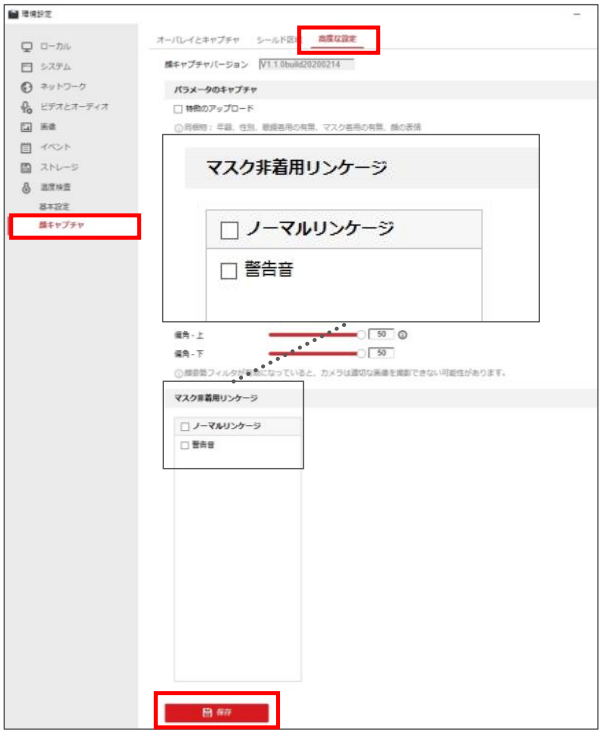
1. 左ペインから温度検査 / 基本設定を開き、温度検査設定タブを開きます。
2. チャンネルNo.をカメラ02に切り替えます。
3. 手動キャリブレーションに補正値を入力します。
4. 保存をクリックします。

詳細設定 / カメラ設定

マスク非着用警告設定

マスク非着用者を検知した際の警告音声の有効/無効を設定します。この音声はカメラスピーカーから再生されます。

1. 左ペインから温度検査 / 顔キャプチャを開き、高度な設定タブを開きます。
2. マスク非着用リンケージの警告音のチェックを設定します。
3. 保存をクリックします。



アラーム音量の設定

カメラスピーカーから出力されるアラームの音量を設定します。（本体スピーカーの音量、管理端末スピーカーの音量には影響しません）

1. 左ペインからイベント / イベントを開き、音声アラーム出力タブを開きます。
2. 音量スライダーを調整します。
3. 保存をクリックします。
4. テストをクリックすると音量の確認ができます。（保存しないと反映されません）

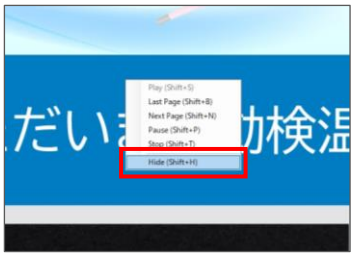
詳細設定 / アラームアナウンスの設定

アラーム起動時に本体スピーカーから再生されるアラームアナウンスの設定を行います。（カメラスピーカーからのアラーム、管理端末のアラーム音には影響しません）

アラームアナウンスの有効化・無効化

1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hide（Shift+H）をクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)



2．アラームアナウンスの有効化・無効化を切り替える

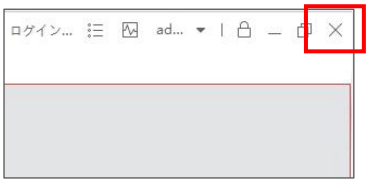
画面左下のスピーカーアイコンをクリックして、有効・無効を切り替えます。

有効状態

無効状態

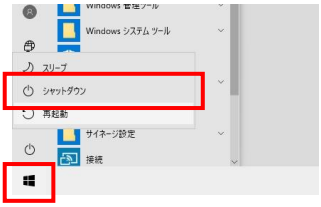
3．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。



4．システムの再起動を行う

画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。



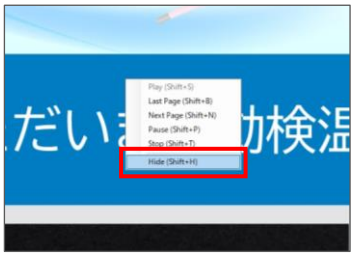
詳細設定 / 本体スピーカーの設定

本体スピーカーの音量を設定します。この設定は、アラームアナウンスの音量、サイネージ音声の再生音量に影響します。（カメラスピーカーの音量、管理端末スピーカーの音量には影響しません）

音量の設定

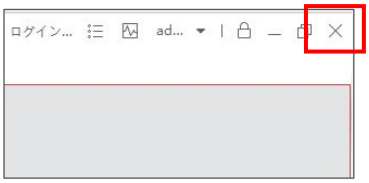
1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hide（Shift+H）をクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)



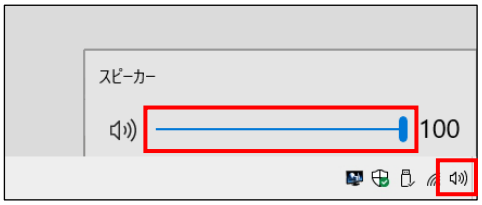
2．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。



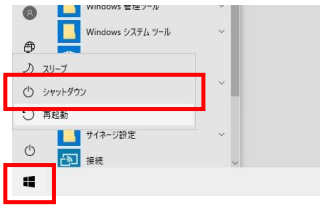
3．音量を調節する

画面右下のスピーカーアイコンをクリックし、音量スライダーを調整します。



4．システムの再起動を行う

画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。



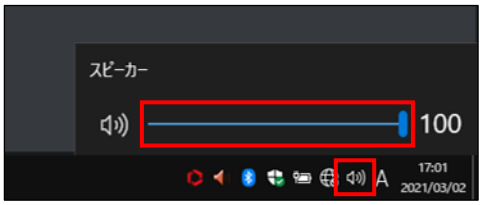
詳細設定 / 管理端末スピーカーの設定

管理端末スピーカーの音量を設定します。（カメラスピーカーの音量、本体スピーカーの音量には影響しません）

音量の設定

1．音量を調節する

画面右下のスピーカーアイコンをクリックし、音量スライダーを調整します。



2．設定を閉じる

画面右下のスピーカーアイコンを再度クリックし、設定を閉じます。

詳細設定 / 日付と時刻の調整

日付と時刻の調整をします。ログデータの日時は、この日付と時刻をもとに記録されます。インターネットに接続している場合、この操作は必要ありません。

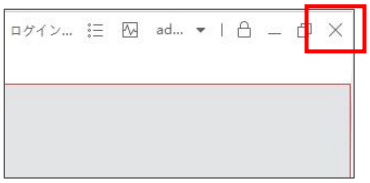
本体の日付と時刻の調整

1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hide（Shift+H）をクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)

2．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。

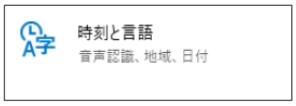


3．Windowsの設定を開く

画面左下のスタートメニューから、設定をクリックします。

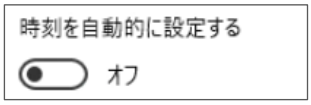
4．時刻設定を開く

時刻と言語をクリックします。



5．時刻設定を手動にする

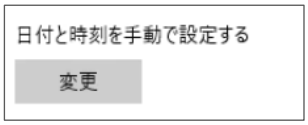
時刻を自動的に設定するをオフにします。



詳細設定 / 日付と時刻の調整

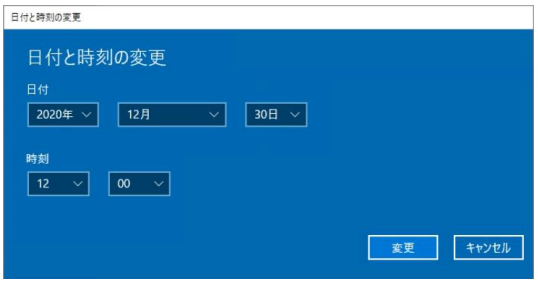
6．日付と時刻の変更を開く

日付と時刻を手動で設定するの変更をクリックします。



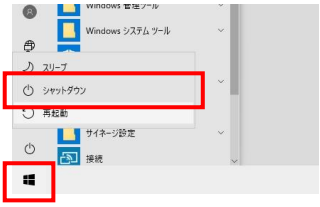
7．日付と時刻を調整する

日付と時刻を現在の日時に設定し、変更をクリックします。



8．システムの再起動を行う

画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。



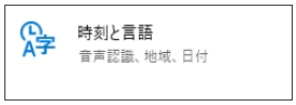
管理端末の日付と時刻の調整

1．Windowsの設定を開く

画面左下のスタートメニューから、設定をクリックします。

2．時刻設定を開く

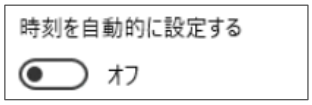
時刻と言語をクリックします。



詳細設定 / 日付と時刻の調整

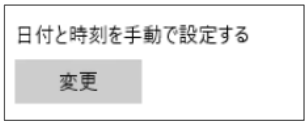
3．時刻設定を手動にする

時刻を自動的に設定するをオフにします。



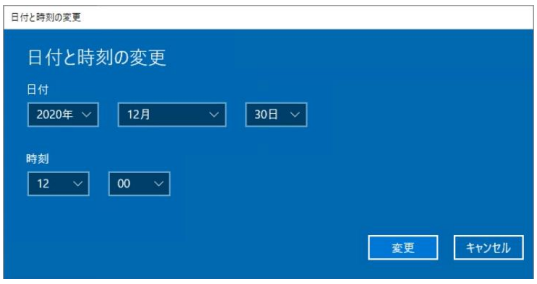
4．日付と時刻の変更を開く

日付と時刻を手動で設定するの変更をクリックします。



5．日付と時刻を調整する

日付と時刻を現在の日時に設定し、変更をクリックします。



6．設定を閉じる

ウィンドウ右上の閉じるボタンをクリックして閉じます。

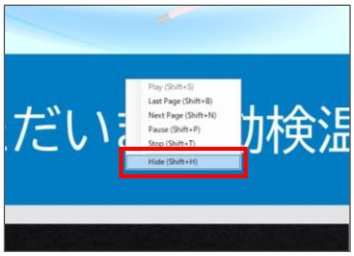
詳細設定 / サイネージ設定

サイネージ部に表示されるコンテンツやテキストの設定をします。サイネージ部の表示はスケジュールファイルによって設定されます。コンテンツやテキストは自由に設定可能です。この操作は本体でのみ可能です。

サイネージ設定に入る操作

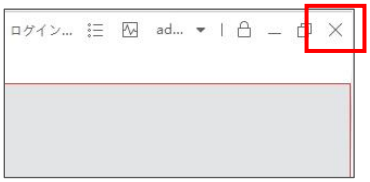
1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hide（Shift+H）をクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)



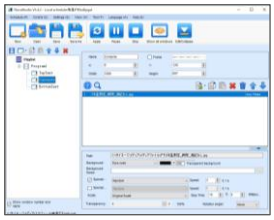
2．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。



3．サイネージ設定を開く

タスクバーから最小化しているNovaStudioを開きます。（起動していない場合はデスクトップショートカットから起動します）



詳細設定 / サイネージ設定

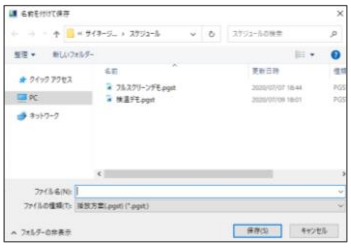
スケジュールファイルの新規作成・開く

スケジュールファイルを新規作成する

新規にスケジュールファイルを作成する場合の操作です。

1. Save Asをクリックします。

2. “C:¥サイネージメディア¥スケージュール”に任意の名前をつけて保存します。



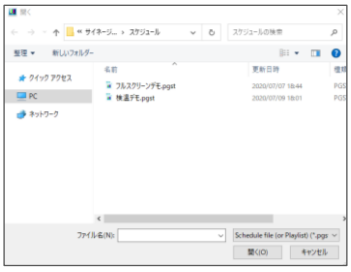
スケジュールファイルを開く

既存のスケジュールファイルを編集する際などに開く場合の操作です。

1. Openをクリックします。

2. 警告が表示される場合はYesをクリックします。

3. “C:¥サイネージメディア¥スケージュール”からスケジュールファイルを開きます。



詳細設定 / サイネージ設定

コンテンツ（メディアファイル）の保存

スケジュールに登録するメディアファイルを本体ストレージに保存します。

1. メディアファイルを用意する

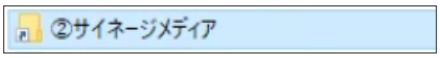
スケジュール登録するメディアファイルをUSBメモリ等のメディアに保存して用意します。
推奨対応形式は以下のとおりです。

静止画ファイル： BMP, JPEG, PNG
動画ファイル： MP4, MPEG, WMV

2. 本体ストレージにメディアファイルを保存する

1. 本体背面のUSBポートにメディアファイルを保存したメディアを接続します。
2. デスクトップからサイネージ設定フォルダを開きます。

3. ②サイネージメディアフォルダを開きます。



4. メディアファイルフォルダを開きます。

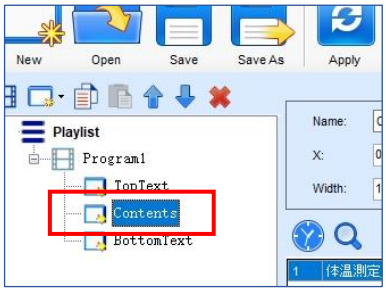
5. メディアファイルフォルダに用意したUSBメモリからメディアファイルをコピーします。

コンテンツ（メディアファイル）の登録・削除

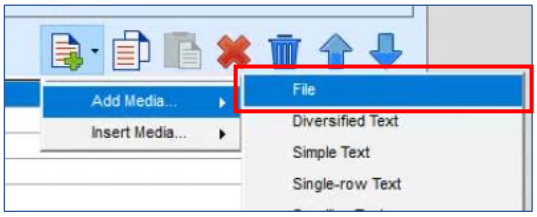
スケジュールにコンテンツ（メディアファイル）の登録・削除をします。

メディアファイルの登録

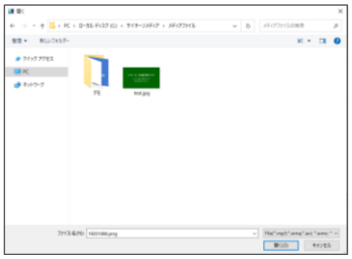
1. 左ペインからContentsもしくはCommon Windowをクリックします。



2. 右ペイン上のAdd Mediaアイコンをクリックし、Add Media...からFileをクリックします。



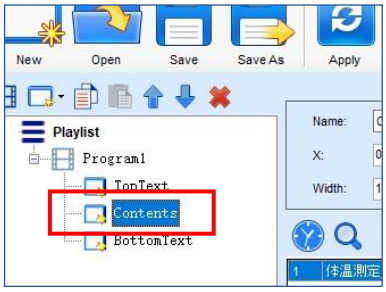
3. “C:¥サイネージメディア¥メディアファイル”から登録するメディアファイルを開きます。



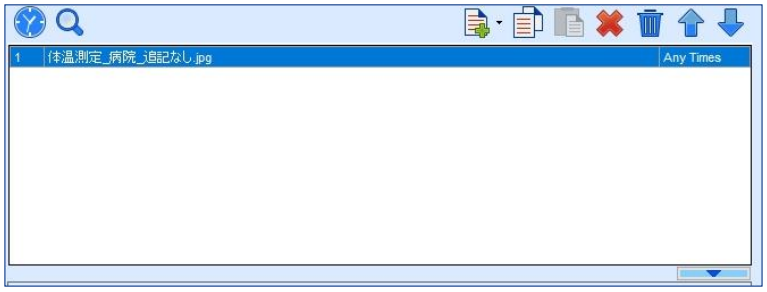
メディアファイルをUSBメモリから直接登録しないでください。必ず本体ストレージに保存して、本体ストレージから登録してください。

メディアファイルの削除

1. 左ペインからContentsもしくはCommon Windowをクリックします。

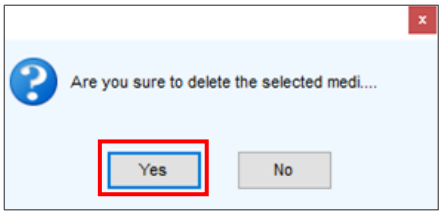


2. 右ペインから削除するメディアファイルを選択します。



3. 右ペイン上のDelete Mediaアイコンをクリックします。

4. 警告表示のYesをクリックします。

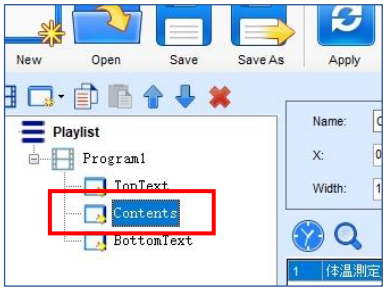


この操作で本体ストレージに保存されているメディアファイル自体が削除されることはありません。メディアファイル自体を削除する場合は、“C:¥サイネージメディア¥メディアファイル”フォルダからメディアファイルを削除してください。

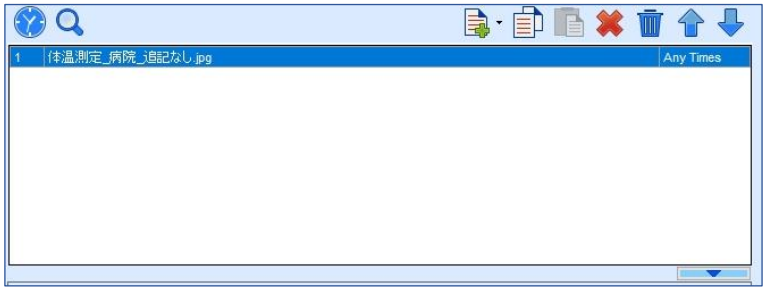
コンテンツ（メディアファイル）表示の詳細設定

コンテンツ（メディアファイル）の表示の詳細な設定をします。

1. 左ペインからContentsもしくはCommon Windowをクリックします。

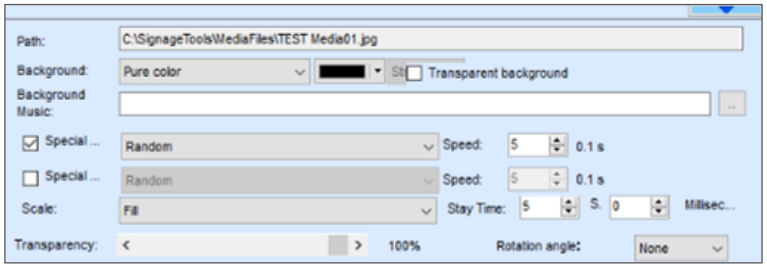


2. 右ペインから設定を変更するメディアファイルを選択します。



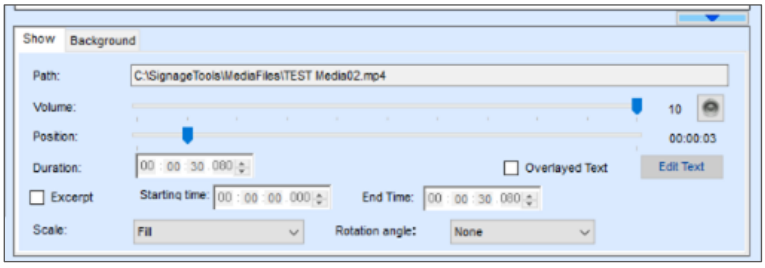
3. 右ペイン下の詳細設定を変更します。

静止画の場合



Special：静止画が切り替わる際のエフェクトを設定します。
Scale：スケーリングを設定します。通常はOriginal Scaleに設定します。
Stay Time：表示する時間を設定します。

動画の場合

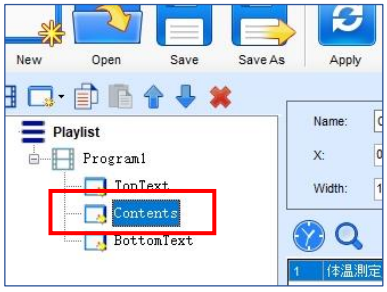


Volume：動画の再生音量を設定します。
Scale：スケーリングを設定します。通常はOriginal Scaleに設定します。

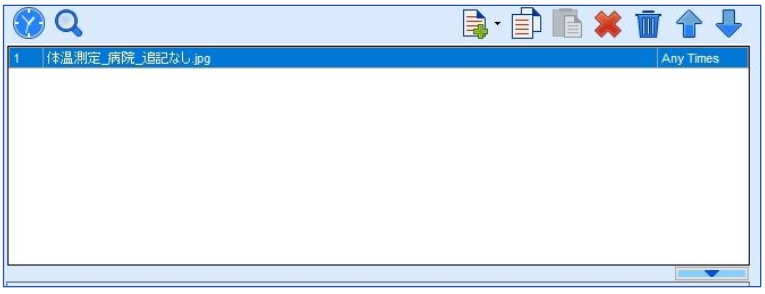
コンテンツ（メディアファイル）表示順の設定

コンテンツ（メディアファイル）の表示順を設定します。

1. 左ペインからContentsもしくはCommon Windowをクリックします。



2. 右ペインから表示順を変更するメディアファイルを選択します。



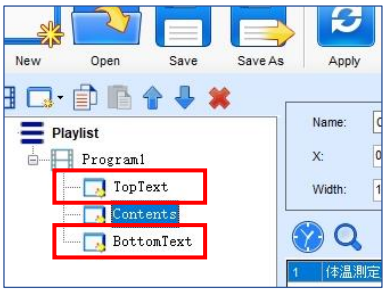
3. 変更したい位置までMove Up / Move Downアイコンをクリックして移動します。（メディアファイルをドラッグすることでも移動可能です。）

詳細設定 / サイネージ設定

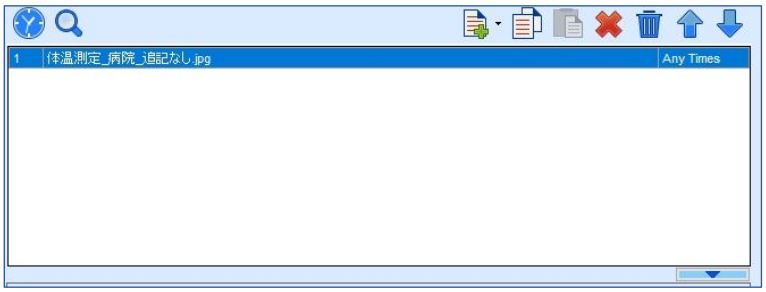
テキスト・スクロールテキストの設定

テキストの内容、プロパティを設定します。

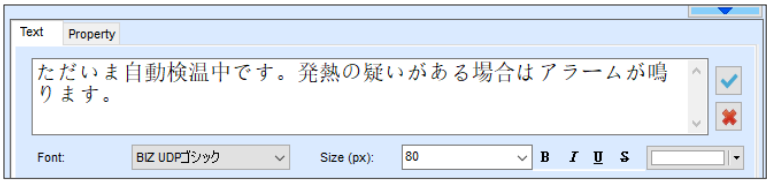
1. 左ペインからTopTextもしくはBottomTextをクリックします。



2. 右ペインからSimple TextもしくはScrolling Textを選択します。



3. 右ペイン下のテキストの内容、テキストのプロパティを変更します。



スケジュール内容の確認

スケジュールを再生して、設定内容を確認します。

1. Play / Applyをクリックします。

2. Show all windowsをクリックし、サイネージ部を表示させます。

詳細設定 / サイネージ設定

3. 確認が終了したら、Hide all windwsをクリックするか、サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hide（Shift+H）をクリックしてサイネージ部を非表示にします。

スケジュールの保存

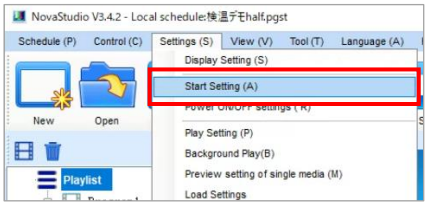
スケジュールの内容をスケジュールファイルに保存します。

1. Saveをクリックします。

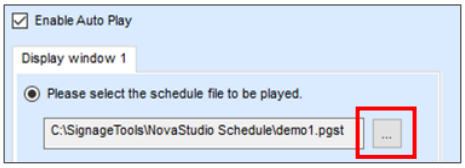
起動時スケジュール読込の設定

サイネージ起動時に読み込むスケジュールファイルの設定をします。

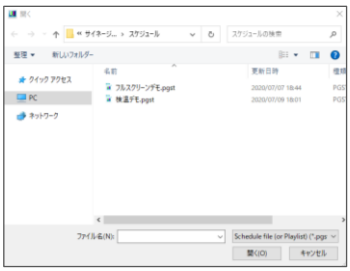
1. Settings（S）メニューからStart Setting（A）をクリックします。



2. Start Settingから参照ボタンをクリックします。

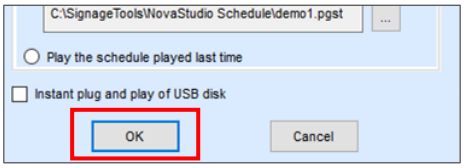


3. “C:¥サイネージメディア¥スケージュール”からスケジュールファイルを開きます。

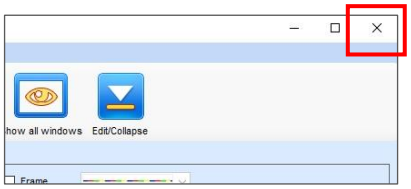


詳細設定 / サイネージ設定

4. OKをクリックしてStart Settingを閉じます。



5. NovaStudioウィドウ右上の閉じるボタンをクリックして閉じます。

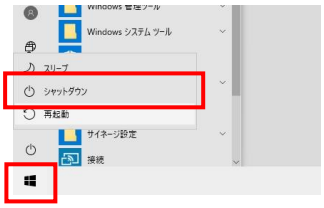


6. デスクトップからサイネージ設定フォルダを開きます。

7. ④サイネージ設定適用を実行します。

8. 設定を適用しました。と表示されたらメッセージが自動的に消えるまで待ちます。

9. 画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。



詳細設定 / 画面レイアウト変更

画面レイアウトの変更をします。この操作は本体でのみ可能です。変更可能なレイアウトプリセットの一覧は P.41・P.42 をご参照ください。レイアウト変更でサイネージ設定が変更された場合は、再設定を行ってください。

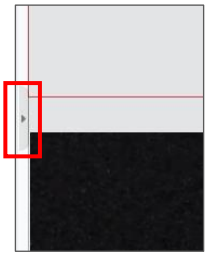
レイアウトプリセットの切り替え

1．サイネージ部を非表示にする

サイネージ部上の適当な場所で右クリックし、Hide（Shift+H）をクリックします。(サイネージ部上ではマウスカーソルが表示されません)

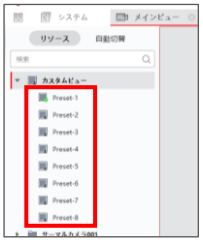
2．サイドバーを表示する

画面左中央のサイドバーボタンをクリックし、サイドバーを表示します。



3．検温画面のレイアウトを変更する

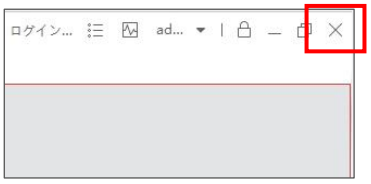
サイドバーのカスタムビューから、変更するレイアウトプリセットをダブルクリックします。



検温画面のレイアウトが変更されたことを確認します。

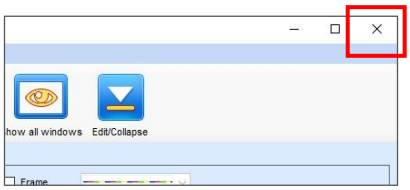
4．メインウィンドウを閉じる

画面右上の閉じるボタンをクリックし、警告表示のOKをクリックします。



5．サイネージ設定を閉じる

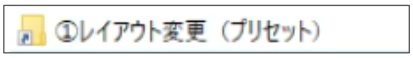
タスクバーから最小化しているNovaStudioを開き、閉じるボタンをクリックして閉じます。



6．レイアウト変更フォルダを開く

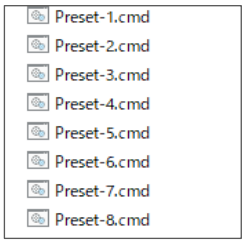
デスクトップからサイネージ設定フォルダを開きます。

①レイアウト変更（プリセット）フォルダを開きます。



7．レイアウトプリセットを実行する

変更するレイアウトプリセット（cmd）をダブルクリックします。

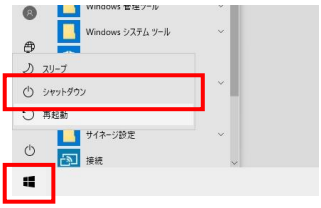


設定を適用しました。と表示されたら適当なキーを押すか、閉じるボタンをクリックして閉じます。

レイアウトプリセット（cmd）は、**3．検温画面のレイアウトを変更する**で選択したプリセットと同じものを選択します。

8．システムの再起動を行う

画面左下のスタートメニューから、シャットダウンし、再度起動します。

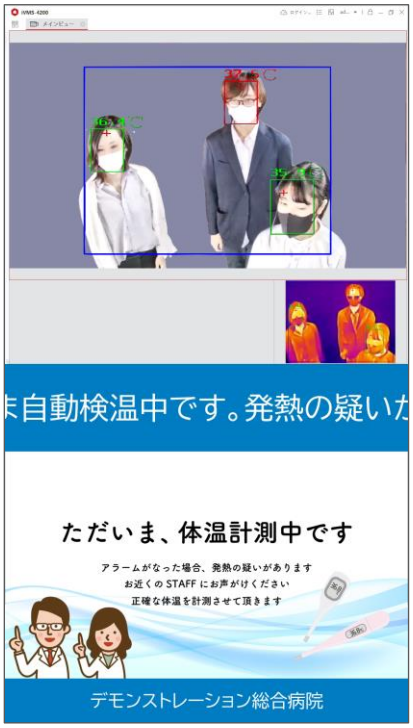


詳細設定 / 画面レイアウト変更

レイアウトプリセット一覧

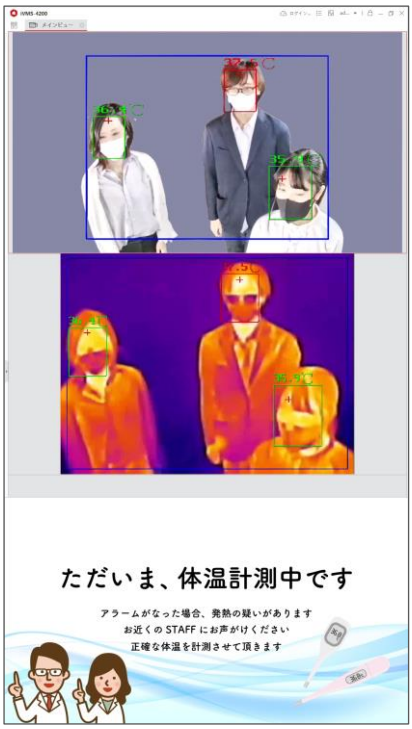
Preset-1

Preset-2



Preset-3

Preset-4

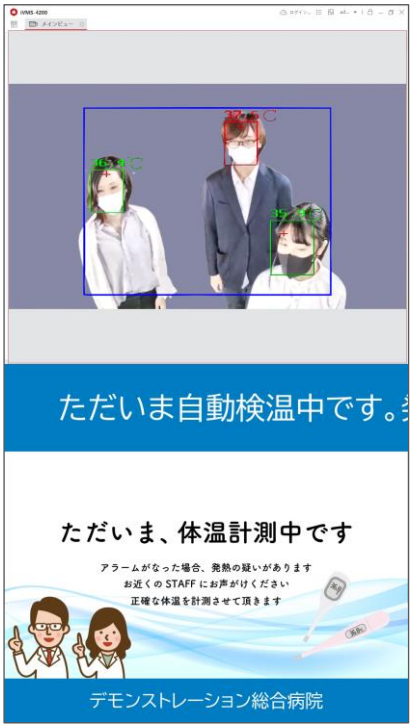


詳細設定 / 画面レイアウト変更

レイアウトプリセット一覧

Preset-5

Preset-6



Preset-7 （サイネージなし）

Preset-8 （サイネージのみ）

主な仕様 / 本体

製品本体	
製品型番	DS-43S-AI(W)
寸法	600(W)*400(D)*1880(H) （キャスターを除く）
重量	約36kg （本体のみ）
ディスプレイサイズ	43インチ
ディスプレイ解像度	1080*1920
消費電力	最大220W
サーマルカメラ	
イメージセンサ	酸化バナジウム非冷却焦点面アレイ
最大解像度	160×120(出力画像解像度320×240)
レンズ（焦点距離）	3.1mm
画角	50° ×37.2°（H×V）
最短焦点距離	0.2m
絞り	F1.1
測定温度範囲	30°C ～ 45°C
測定距離	0.5～15m (推奨距離1～3m)
測定精度	±0.5°C（オプション使用時±0.3°C）
測定可能環境	10 °C～35°C 湿度95%以下（屋内および無風環境）
光学カメラ	
イメージセンサ	1/2.7″ プログレッシブスキャン CMOS
シャッター速度	1s ～ 1/100,000s
レンズ（焦点距離）	4mm
画角	84° ×44.8°（H×V）
WDR	120dB
最大同時測定人数	20人
付属品	
電源コード	
マウス・キーボード	